

かわいいハイラックス

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

英語名ハイラックス、和名をイワダヌキというこの動物、体長が約50センチ。ネズミかモルモットのように見えますが、とてもおとなしい動物です。

アフリカ大陸の東部に広く分布していますが、古くは『聖書』の中にも、この動物が登場します。

外見がネズミに似ているため、以前は齧歯目に分類されたり、骨格がゾウに近いというので、長鼻目に分類されたりしていましたが、近年は独立したイワダヌキ目ハイラックス科イワハイラックス属に分類されるようになりました。

アフリカといえば、大型獣や肉食獣を頭に思い浮かべがちですが、広々とした草原でこんなにかわいい小動物に出会いますと、心が和みます。

ハイラックスは岩場や崖などに集団で住み、岩と岩のすき間や穴を巣にしています。

草食動物ですから、おもに木の葉や草などを食べますが、水はあまり飲まなくても大丈夫のようです。

人間が危害を加えないことを知っている



写真1 岩場で暮らすハイラックス

します。突然のかわいい来訪者に、お客さんたちは大喜びでカメラを向けたり、ビデオを回したり、賑やかになります。

私が初めてハイラックスに出会ったのは、四国全体よりも面積が広いケニアの国立公園ツァボ・ウェスト・ナショナルパークにあるロッジの庭でした。昼食後、目の前に広大な風景が広がるテラスで食後の紅茶を楽しんでいた時、すぐ近くに小さな動くかたまりを見つけ、一瞬「何だろう?」と驚いてティーカップをテーブルの上に置きました。

初めて見る愛敬たっぷりのハイラックス



写真2 保護色のため探すのは大変

をじっくりと見つめていましたら、ロッジのスタッフがにっこり微笑んで「ハイラックスは何もいたずらをしないいい子だから心配ありませんよ」と教えてくれました。

それ以来度々ハイラックスに出会う機会がありますが、いつでもおとなしくじっとポーズをとって写真のモデルをつとめてくれる模範的な優等生です。

巨大な岩を食堂の壁の一部に、うまく採り入れたタンザニアのセレンゲティ国立公園にあるセロネラ・ワイルドライフロッジには、ハイラックスの大家族が暮らしています。

毎朝太陽が昇りますと、巣穴から次々に姿をあらわして、日の当たる岩の側面にじっとして日光浴を楽しみ、夜の間に冷えた体を暖めるのです。この時が一番写真を撮

りやすいシャッター・チャンスであることは、間違いありません。

ところが、日没後足もとが薄暗くなってもまだ遊び足りないのか、ロッジの渡り廊下をチョロチョロ歩いているハイラックスがいるのです。昼間のサファリドライブを楽しみ、シャワーを浴びてさっぱり着替えて「さあ、夕食をとり食堂へ行こう」という時に、遠慮なく歩き回っているハイラックスは、よほど足元に気を配りながら歩

きませんと、つい踏んでしまいそうになるので、気をつける必要があります。

フラミンゴの営巣地として世界的に有名なケニアのナクル湖国立公園には、湖全体を眺望することができるバブーン・クリフ（サバンナヒヒの崖）と呼ばれている高台がありますが、この崖の上にもハイラックスの家族が暮らしています。岩肌とよく似た保護色のハイラックスを見つけるのは簡単ではありませんが、しばらくじっと目を凝らしていると、だんだんどこにいるのか、わかるようになります。

面白いことにハイラックスにも家系によって顔付きが少しずつ違うようで、ナクル湖の家系は丸顔で小さな目、セレンゲティの家系はつぶらな瞳で“美男美女”系と感じるのは私だけでしょうか？

〈ハイラックスひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国（ケニア、タンザニア、ウガンダなど）で話されている公用語のスワヒリ語で、ハイラックスはピンビと呼ばれる。

▶野生のハイラックスの寿命は、15年

ほど。生まれて2年位で成獣になる。妊娠期間は半年ほどで、1産2～6子。

▶ハイラックスの天敵は岩場を好むヒョウやバブーン、ワシ、タカなどの猛禽類。